

政策体系	政策名	I 健やかで安らかに暮らせるまちをつくる【健康・福祉】					施策名	6 子育て支援の充実				施策コード	I-6	総合計画		
町民意識調査結果(R1)	満足度	14	位	重要度	9	位	領域	維持領域		所管課名	子育て支援課		作成者名	内線	121	関連課名

I 目 標 指 標	目標指標名		基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
	1	放課後児童クラブ（所）		目標 実績 達成度	7.0	7.0 7.0 100.0%	8.0 7.0 100.0%	8.0 7.0 87.5%	8.0 8.0 100.0%	
2	病児保育の利用可能な施設	目標 実績 達成度	0.0	0.0 0.0 #DIV/0!	1.0 0.0 0.0%	1.0 1.0 100.0%	1.0 1.0 100.0%	1 - -	1 - -	○ - 達成
3	3歳児健康診査受診率（%）	目標 実績 達成度	95.0	95.0 97.8 102.9%	95.0 99.2 104.4%	96.0 98.4 102.5%	96.0 100.4 104.6%	96 - -	97 - -	○ - 達成
4										
5										
6										
7										

II 主 な 取 組 目	進行状況（A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応）	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
①	地域子育て情報の発信 ・町報、HP、Facebookによる情報発信 ・子育て関連施設での情報提供	C 現状維持 ・町報に子育てに関するページを設け、健診、イベントの予定、各種制度等の周知等を行っている。今後も子育て世帯に、より身近であるHPを利用した情報発信を充実させる必要がある。
②	放課後児童クラブの整備・拡充 ・川崎なかよしクラブの整備 ・豊岡地区に1クラブ増 ・支援員の適正配置	B 改善・順調 ・大神なかよし児童クラブを大神小学校内に整備し、H31年4月から利用を開始した。 ・川崎小学校区の利用児童数の増加に対応するため、既存の川崎なかよしクラブの増築を検討。R2年度中利用開始に向け協議した。
③	児童虐待防止対策の充実 ・要保護児童対策地域連絡協議会の活用 ・関係機関などの職員・保育士などへの研修実施 ・医療機関などの連携	B 改善・順調 ・要保護児童対策地域協議会を毎月開催するとともに、ケースに応じて個別の支援会議を実施し、関係機関と情報共有、連携を図りながら、児童虐待の早期発見、支援を行っている。 ・児童虐待防止に関わる関係機関の職員等を対象とした研修会を実施し、専門性の強化に取り組んだ。
④	保育サービスの充実 ・広域連携による休日保育、病児病後児保育の実施 ・町内の休日保育、病児・病後児保育事業所の整備・拡充	C 現状維持 ・町内では病児保育、病後児保育各1施設において実施している。また広域連携により病児保育を2施設において受入可能となっている。 ・休日保育は対応できる施設がなく、今後整備を進めていく必要がある。
⑤	母子保健事業の充実 ・乳児家庭全戸訪問の実施 ・乳幼児健診・相談会の実施 ・関係機関とのネットワーク構築 ・予防接種の普及啓発	B 改善・順調 ・保護者が孤立せずに子育てができるために、関係機関と連携を図ることを重視しながら丁寧な支援を心がけた。 ・子育て世代包括支援センター開設に向け、妊娠期からのアセスメントと支援計画が充実するよう体制構築の準備ができた。 ・予防接種は様々な機会を捉えた未接種者への声かけ等を実施した。
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容					
H28	・川崎なかよし児童クラブの整備について県と協議した。 ・町内小児科医へ病児保育実施の依頼をする。 ・対象児童の保護者へ連絡して受診を促す	H29	・川崎なかよし児童クラブの整備について実施した。 ・日出町医師会に企業主導型保育事業（病児・病後児保育）について説明する。 ・対象児童の保護者へ連絡して受診を促す。	H30	・大神なかよし児童クラブを整備した。 ・医療法人久寿会「すずらん保育園」において、病児保育を開始した。 ・未受診者には、電話連絡、訪問等で受診勧奨をし、全対象者の状況把握に努めた。
				R1	・大神なかよし児童クラブ利用開始。 ・未受診者には、電話連絡、訪問等で受診勧奨をし、全対象者の状況把握に努めた。

IV 施 策 を 構 成 す る 主 要 事 業	No.	事業名（R元年度分）	関連する取組項目	事業コスト（千円）	【参考】事務事業評価（H30）	
					評価	評価内容
	1	放課後児童健全育成事業	②	38,915	なし	-
	2	子どもを守る地域ネットワーク事業	③	651	A	事業を継続又は拡大
	3	ひとり親家庭等医療費助成事業	④	19,933	なし	-
	4	保育所等緊急整備事業	④	50,264	なし	-
	5	児童館・母親クラブ事業	④	14,095	C	事業廃止の検討を含め事業縮小
	6	地域子育て支援事業	④	50,134	なし	-
	7	子どものための教育・保育給付事業	④	1,048,336	なし	-
	8	乳児家庭全戸訪問事業	⑤	9,616	A	事業を継続又は拡大
	9	子ども医療費助成事業	⑤	103,008	A	事業を継続又は拡大
	10	小児等救急医療体制整備事業	⑤	59,986	なし	-

V 評 価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針（次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項）
	B	概ね順調に進んでいる
行政評価会議		評価理由
B	遅れている	「子育て支援の充実」は、安心して子育てできる環境づくりが主な目的である。目標指標は全て目標を達成しているため、概ね順調に進んでいるとして、評価はBとしている。また、近年問題となっている待機児童について、日出町も待機児童数の状況を把握するために、「保育施設利用待機児童数や放課後児童クラブを利用できなかった児童数」を新たな目標指標に検討していただきたい。また、年々扶助費が増加傾向にあり、子育て支援の事業も過剰となっている部分が見受けられるため、他市町村との事業コストの比較ができるような目標指標の追加を検討していただきたい。
	外部行政評価委員会	評価理由
B	概ね順調に進んでいる	施策の個々の目標については、十分達成できたと言えないものはあるが、全体としては一定の進捗が見られているため、B評価とする。しかし、今後、取り組みを進めていくにあたっては、取組状況をより把握できる指標を追加していただきたい。指標については、日出町に合った余裕をもった子育て支援の環境整備を念頭に設定するとともに、年々増加し続ける投資に対してどれだけの便益が発生するかを意識して、事業の組立てを行うこと。また保育所のハード整備には多大な公費を投入することになるため、今だけではなく将来の需要がどれだけあるのかを見極めて、慎重に判断しながら、施策の進行管理をしていただきたい。

政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	1 幼稚園教育の充実			施策コード	II-1	総合計画		
町民意識調査結果(R1)	満足度	28	位	重要度	18	位	領域	強化領域		所管課名	学校教育課	作成者名	内線	関連課名	教育総務課

I 目標 指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
			1	園内研修	目標	実施	実施	実施	
		実績	実施	実施	実施	実施	-	-	
		達成度	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	-	達成
2	アプローチカリキュラムの作成	目標	実施	実施	実施	実施	毎年度実施	毎年度実施	○
		実績	実施	実施	実施	実施	-	-	
		達成度	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	-	達成
3									
4									
5									
6									
7									

II 主な取組項目	進行状況 (A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応)	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 教育内容の充実 ・幼児期にふさわしい基本的な社会性を培う教育の充実	B 改善・順調	図書館等の公共の施設を訪問したり利用したりする中で、公共物はみんなの物であることがわかり、大切に利用する姿が見られた。交流行事（交通安全教室、努力遠足、図書館利用、清掃活動、集会活動等）を通して、地域の人や小学生とふれあう機会を多く持ち、様々な人と交流を深めることができた。
② 教職員の資質向上 ・園内研究会の充実 ・園外研究会・各種研修への参加促進	A 達成・解決	町内全幼稚園で園内研修を実施した。令和元年度は「幼稚園教育と小学校教育との接続の推進について」を研究テーマに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、発達や育ちの過程を継続的に捉えていった。環境構成や援助の工夫の在り方について研究を深めることができた。また、幼保小連携推進協議会も兼ね、小学校、認定こども園、認定保育所の関係者も参加した。幼保小の効果的な連携方法について話し合うことができた。
③ 施設・設備の充実 ・施設・設備の整備充実	A 達成・解決	遊具の安全点検とそれに伴う危険個所の修繕は年度内に実施できた。また施設、設備の修繕についても年間計画に沿って対応するとともに随時発生する不具合にも迅速に対応しており、園児の安全・安心な生活環境を整備することができた。
④ 家庭・地域との連携 ・積極的な情報発信 ・各種団体との交流	B 改善・順調	園での生活の様子を「園だより」や連絡帳等で知らせたり、保護者と直接話し合ったりして、園児に関する共通理解を図った。秋祭りごっこや発表会等を通して老人クラブの方々との交流を図った。幼小合同運動会や交通安全教室、遠足等を通して小学生との交流を図った。様々な人と交流を深めることができた。
⑤ 小学校との連携 ・小1プロブレム防止に向けたアプローチカリキュラムの作成と実施	B 改善・順調	小学校、幼稚園、認定こども園、保育園の教職員が参加し、幼保小連携推進協議会を3回実施した。1回目は6月に小学校1年生の授業の様子を参観し、事後に1年生の様子やスタートカリキュラム等についての協議を行った。2回目は幼稚園の園内研究会に参加し、保育参観、研究協議を通して、アプローチカリキュラムや「育ってほしい10の姿」、幼保小の連携についての理解を深めた。
⑥ 預かり保育の充実 ・預かり保育事業の継続実施	A 達成・解決	全園で継続実施することにより、共働き等の事情で長時間の保育を必要とする保護者のニーズに応えることができている。
⑦		

III 年度別取組内容					
H28	○幼・保・小連携協議会を年間2回実施。 ○公立幼稚園、小学校の連携	H29	○幼・保・小連携協議会を年間2回実施。 ○公立幼稚園、小学校の連携 ○カリキュラム研修会の実施	H30	○幼保小連携協議会を年間2回実施。 ○公立幼稚園、小学校の連携 ○園内研究会・幼稚園研修会の実施
				R1	○幼保小連携推進協議会を年間3回実施。 ○公立幼稚園、小学校の連携 ○園内研究会・幼稚園研修会の実施

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名 (R元年度分)	関連する取組項目	事業コスト (千円)	【参考】事務事業評価 (H30)	
					評価	評価内容
	1	幼稚園費	①	124,150	なし	-
	2					#N/A
	3					#N/A
	4					#N/A
	5					#N/A
	6					#N/A
	7					#N/A
	8					#N/A
	9					#N/A
	10					#N/A

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針 (次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項)
	B	幼保小連携推進協議会を年3回実施した。1、2回目は小学校区ごとに開催し、小学校（1年生）での授業参観、幼稚園での保育参観を行った。その後の研究協議では、様々な立場から様々な意見が出され、今後の保育の参考となった。幼稚園研修会では、幼児教育アドバイザーを招聘し、講義・演習を通して、「幼児教育において育みたい資質・能力」について学習を深めた。
C	概ね順調に進んでいる	行政評価会議
C	遅れている	評価理由
C	外部行政評価委員会	「幼稚園教育の充実」では、幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎を育む大切な時期であり、幼稚園は「生きる力」の基礎を培う重要な役割を担っている。女性の社会進出が進み、保育料の無償化等の影響もあり、幼稚園に通う幼児数は年々減少しているため、今後の体制を見直ししていく必要がある。また、目標指標を2つ設定しているが、どちらも数値化したものではなく、施策の進捗状況を把握できない。後期基本計画では、進捗状況を把握できる目標指標を設定し、また年々減少している幼稚園利用者数について、今後も減少が進めば、課題解決に向けた新たな取組項目を設定し、体制の見直し等検討していただきたい。
C	やや遅れている	評価理由
		目標指標、主な取組項目は全て達成されているものの、委員から指摘があったとおり、進捗管理を判断する材料が少ないため、正しい評価ができない。進捗管理の方法の検討が必要だと判断し、C評価とする。家庭・地域・小学校が連携して様々な取り組みを進めているが、その進捗管理ができる目標指標の設定をしていただきたい。また、幼稚園教育の魅力を知ることができないように見受けられるため、今後は、幼稚園教育の魅力を伝えられるように、より具体的な情報発信に努めていただきたい。目標指標については、的確な進捗度が図れる数値による進捗管理をしていただきたい。幼稚園教育に関しては、園内の教育充実が問われているだけではなく、幼稚園自体のニーズが減り、今後の在り方自体が問われている。そのため、幼稚園の満足度調査を行い、ニーズと運営について乖離が生じているのであれば是正を行うことに加え、並行して今後更に児童が減った場合に幼稚園全体の運営をしっかりと計画しておくことが必要である。

施策評価（第5次総合計画進行管理）シート 【令和元年度分】

強化領域 …… 【満足度低く、重要度は高い】 優先して積極的に取組の強化が必要な領域

整理番号



政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	2 義務教育の充実			施策コード	II-2	総合計画			
町民意識調査結果(R1)	満足度	22	位	重要度	7	位	領域	強化領域		所管課名	学校教育課		作成者名	内線	関連課名	教育総務課、学校給食センター

目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2	R7	評価	
							(中間年)	(最終年)		
1	大分県学力定着状況調査での正答率60%未満の児童生徒の割合（小5と中2を合わせた平均%）	目標	25.0	24.0	23.0	22.0	22.0	20.0	✗	
		実績	25.4	30.5	35.0	35.8	32.8	-		-
		達成度	122.0%	145.8%	155.7%	149.1%	-	-		未達成
2	いじめ事案に対する解消率（%）	目標	99.5	100.0	100.0	100.0	100	100	✗	
		実績	99.2	94.0	77.2	78.4	88.8	-		-
		達成度	94.5%	77.2%	78.4%	88.8%	-	-		未達成
3	平成26年度を基準とした不登校児童生徒数の減少率（%）	目標	51.0	52.0	53.0	54.0	55	60	✗	
		実績	50.0	36.0	16.0	-56.0	-158.0	-		-
		達成度	70.6%	30.8%	-105.7%	-292.6%	-	-		未達成
4	全国調査における町全体の低体力層（D,E層）の割合（%）【小学校】	目標	15.0	15.0	15.0	15.0	10.0	10.0	✗	
		実績	16.1	16.0	19.6	16.8	17.2	-		-
		達成度	106.7%	130.7%	112.0%	114.7%	-	-		未達成
5	全国調査における町全体の低体力層（D,E層）の割合（%）【中学校】	目標	12.0	15.0	15.0	10.0	10.0	10.0	✗	
		実績	13.3	16.1	17.2	9.6	20.6	-		-
		達成度	134.2%	114.7%	64.0%	206.0%	-	-		未達成
6		目標								
		実績								
		達成度								
7		目標								
		実績								
		達成度								

II 主な取組項目	進行状況（A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応）	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 確かな学力の育成 ・習熟度別指導の充実、補充学習の実施 ・夏休みステップアップ講座の実施 ・ICTを活用した教育の充実	B 改善・順調	・小学校では高学年の算数を中心に、中学校では数学（3年）と英語（2年）で習熟度別少人数指導を実施した。全国学力・学習状況調査では「英語の勉強が好き」と答えた生徒の割合は、全国平均に比べて10ポイント高くなっている。 ・夏休みステップアップ講座については、令和元年度より廃止とした。（夏休み最終1週間から授業日となった） ・小学校では、令和2年度からのプログラミング教育の実施に向けて、タブレットを活用している。今後、研修や教材研究等の準備を進め、環境の整備等についても進めていく。
② 豊かな心の育成（生徒指導の充実） ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ・あったかハート1・2・3の確実な実施 ・道徳教育の充実	C 現状維持	・生徒指導の3機能を生かした授業改善、小中連携による支援、連続3日以上・月7日以上欠席児童生徒の把握と早期支援対応、SC、SSW等との連携による支援体制強化、道徳教育の研究と実践に取り組んだ。 ・不登校児童生徒の増加については、長期休業後の具体的な対策、保護者への対応が不十分であった。
③ 健やかな体の育成 ・体力向上推進計画の推進 ・一校一実践の実施 ・体育専科教員の活用	B 改善・順調	・日出町体力向上推進委員会を年3回開催し、そのうちの1回を授業研（体育保健課指導主事招聘）と併せて実施した。 ・町の重点項目である「一校一実践」の改善に関して、各校では生徒会や委員会と連携し、休み時間の外遊びの奨励や体力を向上させる取組（縄跳び、持久走、リレー、トレーニングセミナー等）を行った。 ・体育専科教員が、町内全小学校に毎週訪問し、指導にあたった（前期：5・6年中心、後期：1～4年中心）。全学校において、運動施設の整備や利用方法についてのアドバイス、体育施設内等の整理整頓の支援を行った。
④ 特別支援教育の充実 ・校内支援体制の確立 ・個別の指導計画・教育支援計画の作成 ・合理的配慮による支援の充実	C 現状維持	・校内の特別支援教育コーディネーターが中心となり、保護者や関係機関との連絡や調整を行った。 ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、全職員で共通理解を図りながら、指導を行った。また、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒についても「個別の指導計画」を作成（作成率100%）し、個に応じた支援を行った。 ・各学校で、活動に見通しを持たせる配慮や教材教具の工夫等を行っている。保護者に対しては、県主催の「合理的配慮に関する保護者説明会」への参加を勧めた。
⑤ 地域・家庭との連携 ・学校運営協議会の活用 ・特色ある学校づくりの推進 ・学校情報の公開	C 現状維持	・学校運営協議会を年3～4回実施した。年度初めには、学校経営方針や年間計画等を確認し、育てたい子どもの姿等について共通理解を図った。学校の応援団として、学習支援や学校安全、環境整備等に協力をいただいた。 ・どの学校も、年3回以上の学校公開日を設定している。また、学校の行事や学力調査の結果等も学校だよりやホームページを利用して、知らせている。今後も保護者や地域の人々の協力が得られるよう、積極的に情報発信を進めていく必要がある。
⑥ 学校給食の充実 ・食育の推進 ・給食内奥の充実 ・衛生管理の徹底	B 改善・順調	○新たな試みとして、小学校家庭科部会と連携し「給食を活用した弁当作り」による食指導を行った。また、「学校給食における食物アレルギー対応基本方針」を作成し運用を開始した。 ○新センター建設において、プロポーザルによる厨房機器の選定を行った。献立を作る栄養士と現場で働く調理員の計4名を委員に委嘱し持てる知識と経験を十分に活かしてもらい、最も優れた提案者を選定することができた。
⑦ 施設・設備の充実 ・施設・設備の整備充実 ・防災教育の充実	C 現状維持	・施設の点検を定期的に実施している。また、個人情報の保護等、インターネットの環境も整備できている。今後も、子どもの安全面等に関わって、学校独自の補修等が無理と判断した場合は、学校と教育委員会が連携しながら、改善を図るための措置を講じていく。 ・各学校で、危機管理マニュアルや学校安全計画等を作成し、周知を図るための研修が行われている。災害発生時の避難経路や保護者への連絡体制等も確認できている。災害発生時の防災訓練も年間3回程度実施している。

III 年度別取組内容					
H28	・フレンドリー広場の拡充 ・スクールソーシャルワーカーの配置 ・コミュニティスクール全校配置 ・タブレット端末を活用した特別支援教育の充実	H29	・フレンドリー広場の取組 ・スクールソーシャルワーカーの活用 ・コミュニティスクールの取組	H30	・フレンドリー広場の充実 ・スクールソーシャルワーカーの活用 ・コミュニティスクールの充実
				R1	・フレンドリー広場の充実 ・スクールソーシャルワーカーの活用 ・コミュニティスクールの充実 ・PTAと連携した「10（11）ー7ー1」運動の推進 ・幼保小中の接続を重視した取組

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名（R元年度分）	関連する取組項目	事業コスト（千円）	【参考】事務事業評価（H30）	
					評価	評価内容
	1	小学校外国語活動推進事業	①	12,352	なし	-
	2	中学校外国語活動推進事業	①	5,424	A	事業を継続又は拡大
	3	各種競技九州、全国大会出場費補助事業	②	2,500	B	事業改善
	4	部活動活性化推進事業	②	1,310	B	事業改善
	5	フレンドリー広場事業（教育委員会）	②	3,124	なし	-
	6	フッ化物洗口事業	③	992	なし	-
	7	スクールソーシャルワーカー活用事業	⑤	1,476	なし	-
	8	学校給食調理事業	⑥	68,655	なし	-
	9	小学校管理事業（教育委員会）	⑦	50,318	なし	-
	10	中学校管理事業（教育委員会）	⑦	20,693	なし	-

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針（次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項）	
		評価理由	今後の取組方針
C	やや遅れている	行政評価会議	評価理由
		外部行政評価委員会	評価理由
C	遅れている	行政評価会議	「義務教育の充実」では、知・徳・体をバランスよく育てることが大切だが、設定している5つ目標指標の目標を全て達成できていないため、C評価としている。適切ではない目標指標となっている指標が数多くあるため、後期基本計画では指標の見直しをしていただきたい。特にICTの推進は前倒しで進められているため、タブレット等を活用した授業など、新たな取組項目の検討をお願いしたい。また、給食センターは今後新しい施設となるため、さらに内容を充実させるために、給食に関する新たな目標指標を追加していただきたい。他には、給食費の公会計への移行など、施策の取組項目の一つとして今後検討していただきたい。
		外部行政評価委員会	【学校給食センター】 義務教育の充実では、取組項目の達成度が遅れていることから、C評価とする。その中で、まず指標については、数値目標を実数で扱い、分かりやすい指標を設定し取組を進めていただきたい。また、日出町独自の特色ある学校づくりに繋がるような指標についても設定を検討していただきたい。ICTの整備や活用方法、そして教職員の働き方改革、職員が一体となって働く意欲を高められるように、計画を立てていただきたい。 【学校給食センター】 給食センターについては、公会計の移行に向けて取組が進められているが、新しい施設においては調理できる品目も拡充されるので、現給食の満足度調査を実施し、その結果をもとにした新たな目標指標の設定をしていただきたい。

施策評価（第5次総合計画進行管理）シート 【令和元年度分】

強化領域 …… 【満足度低く、重要度は高い】 優先して積極的に取組の強化が必要な領域

整理番号



政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	2 義務教育の充実			施策コード	II-2	総合計画		
町民意識調査結果(R1)	満足度	22	位	重要度	7	位	領域	強化領域		所管課名	学校給食センター	作成者名	内線	関連課名	学校教育課、教

目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2	R7	評価	
							(中間年)	(最終年)		
1	大分県学力定着状況調査での正答率60%未満の児童生徒の割合（小5と中2を合わせた平均%）	目標	25.0	24.0	23.0	22.0	22.0	20.0	✗	
		実績	25.4	30.5	35.0	35.8	32.8	-		-
		達成度	122.0%	145.8%	155.7%	149.1%	-	-		未達成
2	いじめ事案に対する解消率（%）	目標	99.5	100.0	100.0	100.0	100	100	✗	
		実績	99.2	94.0	77.2	78.4	88.8	-		-
		達成度	94.5%	77.2%	78.4%	88.8%	-	-		未達成
3	平成26年度を基準とした不登校児童生徒数の減少率（%）	目標	51.0	52.0	53.0	54.0	55	60	✗	
		実績	50.0	36.0	16.0	-56.0	-158.0	-		-
		達成度	70.6%	30.8%	-105.7%	-292.6%	-	-		未達成
4	全国調査における町全体の低体力層（D,E層）の割合（%）【小学校】	目標	15.0	15.0	15.0	15.0	10.0	10.0	✗	
		実績	16.1	16.0	19.6	16.8	17.2	-		-
		達成度	106.7%	130.7%	112.0%	114.7%	-	-		未達成
5	全国調査における町全体の低体力層（D,E層）の割合（%）【中学校】	目標	12.0	15.0	15.0	10.0	10.0	10.0	✗	
		実績	13.3	16.1	17.2	9.6	20.6	-		-
		達成度	134.2%	114.7%	64.0%	206.0%	-	-		未達成
6		目標								
		実績								
		達成度								
7		目標								
		実績								
		達成度								

II 主な取組項目	進行状況（A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応）	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 確かな学力の育成 ・習熟度別指導の充実、補充学習の実施 ・夏休みステップアップ講座の実施 ・ICTを活用した教育の充実	B 改善・順調	・小学校では高学年の算数を中心に、中学校では数学（3年）と英語（2年）で習熟度別少人数指導を実施した。全国学力・学習状況調査では「英語の勉強が好き」と答えた生徒の割合は、全国平均に比べて10ポイント高くなっている。 ・夏休みステップアップ講座については、令和元年度より廃止とした。（夏休み最終1週間から授業日となった） ・小学校では、令和2年度からのプログラミング教育の実施に向けて、タブレットを活用している。今後、研修や教材研究等の準備を進め、環境の整備等についても進めていく。
② 豊かな心の育成（生徒指導の充実） ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ・あったかハート1・2・3の確実な実施 ・道徳教育の充実	C 現状維持	・生徒指導の3機能を生かした授業改善、小中連携による支援、連続3日以上・月7日以上欠席児童生徒の把握と早期支援対応、SC、SSW等との連携による支援体制強化、道徳教育の研究と実践に取り組んだ。 ・不登校児童生徒の増加については、長期休業後の具体的な対策、保護者への対応が不十分であった。
③ 健やかな体の育成 ・体力向上推進計画の推進 ・一校一実践の実施 ・体育専科教員の活用	B 改善・順調	・日出町体力向上推進委員会を年3回開催し、そのうちの1回を授業研（体育保健課指導主事招聘）と併せて実施した。 ・町の重点項目である「一校一実践」の改善に関して、各校では生徒会や委員会と連携し、休み時間の外遊びの奨励や体力を向上させる取組（縄跳び、持久走、リレー、トレーニングセミナー等）を行った。 ・体育専科教員が、町内全小学校に毎週訪問し、指導にあたった（前期：5・6年中心、後期：1～4年中心）。全学校において、運動施設の整備や利用方法についてのアドバイス、体育施設内等の整理整頓の支援を行った。
④ 特別支援教育の充実 ・校内支援体制の確立 ・個別の指導計画・教育支援計画の作成 ・合理的配慮による支援の充実	C 現状維持	・校内の特別支援教育コーディネーターが中心となり、保護者や関係機関との連絡や調整を行った。 ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、全職員で共通理解を図りながら、指導を行った。また、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒についても「個別の指導計画」を作成（作成率100%）し、個に応じた支援を行った。 ・各学校で、活動に見通しを持たせる配慮や教材教具の工夫等を行っている。保護者に対しては、県主催の「合理的配慮に関する保護者説明会」への参加を勧めた。
⑤ 地域・家庭との連携 ・学校運営協議会の活用 ・特色ある学校づくりの推進 ・学校情報の公開	C 現状維持	・学校運営協議会を年3～4回実施した。年度初めには、学校経営方針や年間計画等を確認し、育てたい子どもの姿等について共通理解を図った。学校の応援団として、学習支援や学校安全、環境整備等に協力をいただいた。 ・どの学校も、年3回以上の学校公開日を設定している。また、学校の行事や学力調査の結果等も学校だよりやホームページを利用して、知らせている。今後も保護者や地域の人々の協力が得られるよう、積極的に情報発信を進めていく必要がある。
⑥ 学校給食の充実 ・食育の推進 ・給食内奥の充実 ・衛生管理の徹底	B 改善・順調	○新たな試みとして、小学校家庭科部会と連携し「給食を活用した弁当作り」による食指導を行った。また、「学校給食における食物アレルギー対応基本方針」を作成し運用を開始した。 ○新センター建設において、プロポーザルによる厨房機器の選定を行った。献立を作る栄養士と現場で働く調理員の計4名を委員に委嘱し持てる知識と経験を十分に活かしてもらい、最も優れた提案者を選定することができた。
⑦ 施設・設備の充実 ・施設・設備の整備充実 ・防災教育の充実	C 現状維持	・施設の点検を定期的実施している。また、個人情報の保護等、インターネットの環境も整備できている。今後も、子どもの安全面等に関わって、学校独自の補修等が無理と判断した場合は、学校と教育委員会が連携しながら、改善を図るための措置を講じていく。 ・各学校で、危機管理マニュアルや学校安全計画等を作成し、周知を図るための研修が行われている。災害発生時の避難経路や保護者への連絡体制等も確認できている。災害発生時の防災訓練も年間3回程度実施している。

III 年度別取組内容	給食センター
H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入（献立ソフト）・センター修繕（ボイラー減圧弁、蒸気部品交換・屋根漏水補修等）必要な備品の導入、また機器の補修により施設・設備の維持管理ができた。</li> </ul>
H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入（包丁まな板殺菌庫1台）・センター修繕（ダクト清掃・修繕、エアシャワー清掃、ガス自動調整器取替、1号車NOX取替等）必要な備品の導入、また機器の補修により施設・設備の維持管理ができた。</li> </ul>
H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入（消毒保管庫、ポータブルスポットエアコン、移動式パンラック）</li> <li>・施設修繕（グリストラップフロート取替、漏水補修、1号車リヤモニター等取替修繕、調理場内床面補修）</li> </ul> 必要な備品の導入及び機器の補修により施設・設備の維持管理ができた。
R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設修繕（グリストラップポンプ修繕、大型ガスメーター法定交換、ボイラー熱交換器取替、ボイラー蒸気バルブ取替）</li> </ul> 老朽化による急を要する修繕等にも対応でき、施設・設備の維持管理ができた。

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名（R元年度分）	関連する取組項目	事業コスト（千円）	【参考】事務事業評価（H30）	
					評価	評価内容
	1	小学校外国語活動推進事業	①	12,352	なし	-
	2	中学校外国語活動推進事業	①	5,424	A	事業を継続又は拡大
	3	各種競技九州、全国大会出場費補助事業	②	2,500	B	事業改善
	4	部活動活性化推進事業	②	1,310	B	事業改善
	5	フレンドリー広場事業（教育委員会）	②	3,124	なし	-
	6	フッ化物洗口事業	③	992	なし	-
	7	スクールソーシャルワーカー活用事業	⑤	1,476	なし	-
	8	学校給食調理事業	⑥	68,655	なし	-
	9	小学校管理事業（教育委員会）	⑦	50,318	なし	-
	10	中学校管理事業（教育委員会）	⑦	20,693	なし	-

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針（次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項）	
		評価理由	今後の取組方針
C	やや遅れている	目標指標については見直しが必要である。1の「大分県学力定着状況調査での正答率60%未満の児童生徒の割合（小5と中2を合わせた平均%）」については、「大分県学力定着状況調査での正答率60%未満の児童、50%未満の生徒の割合（小5と中2を合わせた平均%）」と改めたい。また、3の「平成26年度を基準とした不登校児童生徒数の減少率」についても、目標指標を改め、変化の激しい世の中の現状に即した不登校生との対応を考えていきたい。	主な取組項目については、必要に応じて各学校に支援・指導を行いながら、今後も取組の充実を図っていく。
		行政評価会議	評価理由
C	遅れている	「義務教育の充実」では、知・徳・体をバランスよく育てることが大切だが、設定している5つ目標指標の目標を全て達成できていないため、C評価としている。適切ではない目標指標となっている指標が数多くあるため、後期基本計画では指標の見直しをしていただきたい。特にICTの推進は前倒しで進められているため、タブレット等を活用した授業など、新たな取組項目の検討をお願いしたい。また、給食センターは今後新しい施設となるため、さらに内容を充実させるために、給食に関する新たな目標指標を追加していただきたい。他には、給食費の公会計への移行など、施策の取組項目の一つとして今後検討していただきたい。	
		外部行政評価委員会	評価理由
C	やや遅れている	【学校教育課】 義務教育の充実では、取組項目の達成度が遅れていることから、C評価とする。その中で、まず指標については、数値目標を実数で扱い、分かりやすい指標を設定し取組を進めていきたい。また、日出町独自の特色ある学校づくりに繋がるような指標についても設定を検討していただきたい。ICTの整備や活用方法、そして教職員の働き方改革、職員が一体となって働く意欲を高められるように、計画を立てていただきたい。	
		【学校給食センター】 給食センターについては、公会計の移行に向けて取組が進められているが、新しい施設においては調理できる品目も拡充されるので、現給食の満足度調査を実施し、その結果をもとにした新たな目標指標の設定をしていただきたい。	

政策体系	政策名	I 健やかで安らかに暮らせるまちをつくる【健康・福祉】					施策名	1 健康づくりの推進			施策コード	I-1	総合計画				
町民意識調査結果(R1)	満足度	2	位	重要度	6	位	領域	維持領域		所管課名	健康増進課		作成者名	内線	161	関連課名	生活環境

I	目標指標	目標指標名		基準値	H28	H29	H30	R1	R2	R7	評価
		目標	実績		達成度	(中間年)	(最終年)				
1	お達者年齢(歳)【男性】	目標		80.1	0.5歳延伸	80.6	80.6	0.5歳延伸	1歳延伸		✖
		実績	78.7	79.2	79.6	80.2	80.0	-	-		
		達成度	98.9%	#VALUE!	99.4%	99.2%	-	-	未達成		
2	お達者年齢(歳)【女性】	目標		79.5	1歳延伸	80.5	80.5	1歳延伸	2歳延伸		○
		実績	82.8	83.2	83.6	84.0	84.4	-	-		
		達成度	104.6%	#VALUE!	104.3%	104.8%	-	-	達成		
3	国民健康保険加入者の特定健診受診率(%)	目標		41.0	42.0	43.0	44.0	60	62		✖
		実績	39.4	41.2	41.0	39.7	40.6	-	-		
		達成度	100.5%	97.6%	92.3%	92.3%	-	-	未達成		
4	がん検診受診率(%)【胃がん】	目標		12.0	13.5	15.0	16.5	18.0	23.0		✖
		実績	10.6	16.8	21.8	13.7	9.2	-	-		
		達成度	140.0%	161.5%	91.3%	55.8%	-	-	未達成		
5	がん検診受診率(%)【大腸がん】	目標		15.0	16.0	17.0	18.0	20.0	25.0		✖
		実績	14.3	14.2	13.5	13.5	12.7	-	-		
		達成度	94.7%	84.4%	79.4%	70.3%	-	-	未達成		
6	がん検診受診率(%)【肺がん】	目標		17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	26.0		✖
		実績	15.1	15.2	14.0	14.4	13.7	-	-		
		達成度	89.4%	77.8%	75.8%	68.6%	-	-	未達成		
7	がん検診受診率(%)【子宮頸がん】	目標		15.3	15.5	16.0	18.0	23.0	28.0		✖
		実績	15.1	16.5	15.5	17.0	17.2	-	-		
		達成度	107.8%	100.0%	106.3%	95.8%	-	-	未達成		

乳がん検診受診率 15.3 17.14 15.99 17.47 17.87 ✖

II	主な取組項目	進行状況(A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応)	
		達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
①	地域における健康づくりや食育の推進 ・健康づくり推進協議会の活動支援 ・健康運動普及推進員、食生活改善推進員の養成及び活動支援	B	健康寿命延伸を目標に住民主体の健康づくり活動の推進のため各小学校区の健康づくり推進協議会の活動支援、自治公民館単位での健康づくり推進員の地域活動の支援を行う。具体的には、各地区の健康課題について明確にし活動内容の検討のための情報提供を行った(医療費分析、介護予防事業の分析等)。住民協働での健康課題への取り組みとして「日出町健康サミット」の開催、健康イベントの実行などを行った。食生活改善推進員養成講座の開催。健康運動普及推進員養成講座についてはR2年度開催予定。
		改善・順調	
②	健診(検診)受診率の向上 ・受診しやすい健診体制の充実 ・健診受診の啓発	B	各地区での健診体制は総合健診を主軸にし、医療機関、健診センターでの申し込みは直接申し込みの方法をとることで申込書提出の必要をなくし受けやすい体制づくりに努めた。検診受診についての啓発は、協会けんぽより受診勧奨通知を行ってもらうことで社会保険加入者にもがん検診の日程等周知を行えるよう体制を整備した。
		改善・順調	
③	生活習慣病予防対策の推進 ・生活習慣病予防対策の推進 ・生活習慣病重症化予防の推進 ・地域や職場などでの健康教育の推進	C	地域での健康課題への取り組みは各関係団体と協働で行っている。実際に健診後の生活習慣改善のため健康教室の開催を行った。特に働き世代での改善が必要ため夜間での開催とした。重症化予防としては町内医療機関と連携し主治医より指示を受け対象者の生活行動の変容のための訪問指導を保健師、栄養士が実施した。町内企業との健康教育の場については東部保健所の健康経営事業所への関わりを一緒に行うことで事業所内での健康教育を実施することができた。
		現状維持	
④	こころの健康づくりの推進 ・パンフレットの配布など啓発活動 ・相談体制の充実	C	具体的には福祉対策課の障害福祉係と協力して普及啓発を行っている。1～2回/月開催される「こころの相談会」の開催について周知を行う。また、必要な方には、その後医療機関受診などの紹介を行う。「お話し隊事業」の際に普及啓発を行う。
		現状維持	
⑤	医療機関との連携強化 ・医療機関との連携強化	B	R元年度に町内医療機関との「日出町健康課題連携会議」を開催するため医師会長への事業目的等の説明を行った。実際に開催時期が季節性インフルエンザ等の流行時期にも重なり多くの医師会員の先生方の出席が難しいことから来年度に改めて開催することとした。医療機関の従事者との連携の促進については「日出町健康課題研修会」を開催し具体的に重症化予防のために各関係機関が何ができるかなどの検討を行い情報共有を図ることができた。
		改善・順調	
⑥			
⑦			

III 年度別取組内容					
H28	・健康づくり等の推進のため健住民組織や医療機関とともに取組ができた。参加者1,604人。健康マイレージ事業を開始。目標の64.2%達成 ・健診受診率向上のため、対象者に個別通知や受診率の低い40歳代の3か年未受診者訪問。40歳代男性受診率23%、女性27%。目標は未達成。・がん検診意向調査により受診意向や未受診理由の把握	H29	・健康マイレージ事業を住民組織や関係団体と実施(参加者約1700人) ・節塩推進プロジェクトを開始。節塩推進プロジェクトチームを核として節塩の普及啓発や節塩の環境づくりを関係機関と一体的に展開でき、節塩の機運が醸成し、町全体で節塩推進を実施できた。 ・がん検診の自己負担額を最大700円減額して検診を受けやすくした。女性がんは受診者が増加したが、他のがんは横ばいや減少した。 ・40歳代の健診未受診者を主に、受診勧奨・戸別訪問(健康相談)を実施。訪問者の13.3%を健診受診につなげることができた。	H30	・節塩推進プロジェクト2年目の取り組みとして、節塩チェックシートの活用、住民組織と連携した調査・普及活動(味噌汁の塩分測定、料理教室など) ・重症化予防(協働できる体制づくり)の取り組みとして、医療機関へ健康教室の委託 ・節塩環境整備(ひろがる推進体制) 節塩推進会議の開催(分析会議、検討会議) ・がん検診の受診率向上に対して協会けんぽとの連携により町のがん検診について周知を行ってもらった。 ・「日出町健康サミット」として、健康づくり推進協議会、食生活推進協議会、さわやか日出、健康増進課の4者で健康課題に対する取り組みについて検討する場の設立
R1	・節塩推進プロジェクト最終年。関係団体と企画・運営を行い体験型の健康づくりイベントを行った。 ・節塩キャンペーンの継続実施により町内店舗での取り組みの定着がはかれた。 ・医療機関との連携強化事業ではコメディカル対象の研修会を開催し各機関での役割について共通認識を行うことができた。 ・がん検診の受診率向上の取り組みでは協会けんぽとの連携、広報による周知、健康づくり推進員による声かけ等を行った。 ・いきいき日出町健康・食育プランの中間見直し作業から今後の重点課題等を明確にした。				

IV	No.	事業名 (R元年度分)	関連する取組項目	事業コスト(千円)	【参考】事務事業評価 (H30)	
					評価	評価内容
施策を構成する主要事業	1	保健対策推進事業	①	1,824	なし	-
	2	健康増進事業	①	27,921	なし	-
	3	高齢者予防接種事業	①	18,409	なし	-
	4	食育推進事業	①	245	なし	-
	5	健康づくり推進協議会事業	①	506	B	事業改善
	6	健康運動普及推進員育成支援事業	①	252	A	事業を継続又は拡大
	7	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業	②	824	A	事業を継続又は拡大
	8	節塩推進プロジェクト	③	2,118	なし	-
	9	自殺予防対策強化事業	④	668	なし	-
	10	献血推進事業	⑤	52	なし	-

V	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針(次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項)	
		評価	理由
V	概ね順調に進んでいる	B	協力団体や医療機関と連携し住民への意識づけを行い、町民の健康寿命の延伸に取り組んでいる。小さな積み重ねが大きな成果に繋がって行くので、今後とも地道な努力を続けていきたい。
		行政評価会議	評価理由
V	遅れている	C	「健康づくりの推進」の主な目的の一つは健康寿命の延伸である。目標指標のお達者年齢は、H27年度の基準値よりも向上しているが、目標指標の健診の受診率がいずれも目標に達していない。H27年度の基準値と比較しても数値が向上していないため、施策の取組はやや遅れているとみなし、C評価としている。目標指標達成に向けた事業の再構築を検討していただきたい。また、検診の受診率だけではなく、医療費の適正化の観点から1人当たりの医療費の前年比の伸び率などの目標指標の追加を検討していただきたい。
		外部行政評価委員会	評価理由
V	やや遅れている	C	健康づくりの推進は、非常に関心の高い施策であり、成果指標である「お達者年齢」は向上が見られるものの、行動指標として設定した健診受診率についてはほとんど達成されていないことを考慮すると、C評価にせざるを得ない。健康づくりは、結果が出るまで非常に時間を要し、取組と結果の因果関係が分かりにくい。この結果が出るまでの過程が重要であるため、実施している健康づくり事業の進捗具合が分かるような段階的な目標指標の設定の工夫を後期計画ではしていただきたい。

政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	3 生涯学習の充実			施策コード	II-3	総合計画			
町民意識調査結果(R1)	満足度	8	位	重要度	25	位	領域	検証領域		所管課名	社会教育課	作成者名	内線	72-8608	関連課名	日出町立図書館

I 目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
			1	公民館主催教室開催数（教室）	6	8.0	8.0	8.0	
			100.0%	100.0%	75.0%	62.5%	-	-	未達成
2	子ども会組織率（%）	80.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85	90	✕
			68.1	72.2	65.6	61.8	-	-	未達成
			80.2%	84.9%	77.2%	72.7%	-	-	未達成
3	年間貸出冊数（冊）	109,396					136,000	170,000	
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	-	-	#N/A
4	町内の読み聞かせ団体数（団体）	8					10.0	12.0	
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	-	-	#N/A
5									
6									
7									

II 主な取組項目	進行状況（A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応）	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 世代に応じた学習機会の提供 ・公民館主催教室 ・地区公民館活動 ・自治公民館支援活動	D 悪化	教室のマンネリ化などがないように公民館主催教室は3年継続した後、自主教室として行っている。H30はH29より2教室減り、R1はH30より4教室減り、3教室新規に行い始めた。3年サイクルで新規の教室を始めなければいけないので困難ではあるが事前に見つけておく必要がある。
② 子どもの健全育成 ・土曜日教育支援体制等構築事業 ・子ども会活動支援事業 ・子ども会指導者研修会 ・ジュニア・リーダー研修会	D 悪化	学年によって児童数が増減するため年度毎に増減があるのはやむを得ないが、加入者数が年々減少している。子ども会育成会役員会などで加入の必要性を説明し加入を促す必要がある。
③ 公民館活動を通じた人・地域づくり ・地域リーダー養成事業 ・実践発表会 ・講師派遣事業 ・自治公民館新築補助事業	B 改善・順調	取組はすべて実施されている。今後も継続して実施する。
④ 図書館活動・サービスの充実 ・蔵書・利用環境の充実 ・レファレンスサービスの充実 ・図書館展示や催しの充実 ・各種団体間の交流促進	#N/A	
⑤ 子ども読書活動の推進 ・ブックスタート事業への協力 ・読み聞かせ活動の推進 ・読書感想文・感想画コンクールなどの実施	#N/A	
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容					
H28	・田植え教室（年2回） ・ひよっこ踊り教室（月2回） ・大正琴教室（月2回） ・“ワクワク”日本画（初級）教室 ・和太鼓教室（3ヶ月9回） ・公民大学（年5回） ・ひょうたん教室（月2回） ・しめ縄教室（2回）	H29	・美術・芸術・文化鑑賞教室（年5回） ・ふるさと日出の歴史教室（年11回） ・初級カメラ教室（年6回） ・大正琴教室（月2回） ・盆踊り・和太鼓教室（3ヶ月9回） ・しめ縄教室（2回） ・公民大学（年5回） ・ひよっこ踊り教室（月2回）	H30	・ふるさと日出の歴史教室（年11回） ・ひよっこ踊り教室（月2回） ・初級カメラ教室（年7回） ・美術・芸術・文化鑑賞教室（年4、5回） ・公民大学（年5回） ・しめ縄教室（2回）
				R1	・ふるさと日出の歴史教室（年11回） ・公民大学（年5回） ・オカリナ基礎講座（月2回） ・筆文字くらぶ（月2回） ・フォークダンス初心者教室（年18回）

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名（R元年度分）	関連する取組項目	事業コスト（千円）	【参考】事務事業評価（H30）	
					評価	評価内容
	1	社会教育総務費	①	67,632	なし	-
	2	地域「協育力」向上支援事業	①	329	A	事業を継続又は拡大
	3	子ども会育成会連絡協議会支援事業	②	500	なし	-
	4	ジュニア・リーダースクラブ支援事業	②	76	なし	-
	5	中央公民館費	③	39,632	なし	-
	6	地区公民館費	③	10,051	なし	-
	7	図書館運営事業	④	110,412	なし	-
	8	読書活動推進事業	⑤	441	なし	-
	9					
	10					

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針（次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項）	
		C やや遅れている	住民が必要とする学習機会の提供とその奨励が求められています。住民が何に興味があり、今何を求めているかを見極め、タイムリーな学習の場を提供していきたい。また、未来を担う子どもたちには、様々な活動を通じて「生きる力」を身に付けてもらうよう環境づくりを推進していきたい。
	行政評価会議		評価理由
	C 遅れている	「生涯学習の充実」では、生涯にわたって学習し、その成果を地域で生かせる環境づくりや、子どもたちを守り育てる環境づくりを推進することを主な目的としているが、設定している4つの目標指標の目標を全て達成できていないため、C評価としている。社会教育では、目標指標を自主教室の開催数や、地域活動を支える人材育成講座の参加者数を新たな目標指標に追加するなどを検討して頂きたい。図書館活動では、来館者数が年々減少しているため、様々なイベントや蔵書の充実などを図り、利用環境の向上を目指していただきたい。	評価理由
	C やや遅れている	外部行政評価委員会	評価理由
		コロナ禍により、図書館及び公民館の運営は非常に難しかったと思うが、目標指標の達成率等を勘案し、C評価とする。生涯学習の充実に関しては、各委員の意見のとおり、一度目指す姿を見直していただきたい。現在日出町が目指している「共創のまちづくり」を目標に、生涯学習で学んだことを地域に還元したり、地域リーダーが活躍できるような取組を推進するなど、工夫を凝らしながら後期計画ではチャレンジしていただきたい。図書館は、図書館という概念にこだわらずに、コミュニティの場や子育ての場として活用し、放課後子ども教室のような子どもたちが学校の後に気軽にいけるような場にするなど、工夫を凝らしていただきたい。	

政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	3 生涯学習の充実			施策コード	II-3	総合計画		
町民意識調査結果(R1)	満足度	8	位	重要度	25	位	領域	検証領域		所管課名	日出町立図書館	作成者名	内線	関連課名	社会教育課

I 目標指標	目標指標名		基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
	1	公民館主催教室開催数（教室）		目標 実績 達成度	6	8.0 8.0 100.0%	8.0 8.0 100.0%	8.0 6.0 75.0%	8.0 5.0 62.5%	
2	子ども会組織率（%）	目標 実績 達成度	80.0	85.0 68.1 80.2%	85.0 72.2 84.9%	85.0 65.6 77.2%	85.0 61.8 72.7%	85 - -	90 - -	× 未達成
3	年間貸出冊数（冊）	目標 実績 達成度	109,396	114,716 132,805 115.8%	120,036 138,275 115.2%	125,356 125,170 99.9%	130,676 117,338 89.8%	136,000 - -	170,000 - -	× 未達成
4	町内の読み聞かせ団体数（団体）	目標 実績 達成度	8.0	8.0 8.0 100.0%	8.0 8.0 100.0%	9.0 8.0 88.9%	9.0 8.0 88.9%	10.0 - -	12.0 - -	× 未達成
5										
6										
7										

II 主な取組項目	進行状況（A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応）	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 世代に応じた学習機会の提供 ・公民館主催教室 ・地区公民館活動 ・自治公民館支援活動	D 悪化	教室のマンネリ化などがないように公民館主催教室は3年継続した後、自主教室として行っている。H30はH29より2教室減り、R1はH30より4教室減り、3教室新規に行い始めた。3年サイクルで新規の教室を始めなければいけないので困難ではあるが事前に見つけておく必要がある。
② 子どもの健全育成 ・土曜日教育支援体制等構築事業 ・子ども会活動支援事業 ・子ども会指導者研修会 ・ジュニア・リーダー研修会	D 悪化	学年によって児童数が増減するため年度毎に増減があるのはやむを得ないが、加入者数が年々減少している。子ども会育成会役員会などで加入の必要性を説明し加入を促す必要がある。
③ 公民館活動を通じた人・地域づくり ・地域リーダー養成事業 ・実践発表会 ・講師派遣事業 ・自治公民館新築補助事業	B 改善・順調	取組はすべて実施されている。今後も継続して実施する。
④ 図書館活動・サービスの充実 ・蔵書・利用環境の充実 ・レファレンスサービスの充実 ・図書館展示や催しの充実 ・各種団体間の交流促進	B 改善・順調	●蔵書は毎年予算化し増えている。温度や館内の清潔感等、利用者にとって居心地の良い空間づくりに努めています。●司書は県立図書館等の研修会に毎年参加しレファレンススキルの向上に努めています。●図書館内では月毎にテーマを決めて展示を行っている。また未来館者にも来ていただけるようミニコンサート等の催しも実施しています。●読み聞かせボランティアの交流会も定期的に開催しています。
⑤ 子ども読書活動の推進 ・ブックスタート事業への協力 ・読み聞かせ活動の推進 ・読書感想文・感想画コンクールなどの実施	B 改善・順調	●図書館では子育て支援課と連携しブックスタート事業への支援を行っています。（ボランティアのサポート、配布用絵本の選書、読み聞かせ等）●毎月2回、図書館内でボランティアの方による読み聞かせを行っています。（現在はコロナウイルス感染防止の為、休止中）●毎年、小・中学校を対象に読書感想文・感想画コンクールを実施しています。（元年度で31回目）
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容			
H28	・開館一周年記念行事、展示、ミニコンサートなどの実施 → 来館者の増加・レファレンスサービス研修会に参加 → 職員のスキルアップ・ブックスタートの支援 → ボランティアの増加・子ども向けの行事や読み聞かせ団体等の交流会開催 → 参加者の微増、活動の周知	H29	・主な取組事業 不登校対策支援（学校教育課と連携） → 結果的に生徒数が少ない がんに関する医療コーナー設置 → 専門書増え利用者増の要因 行事に合わせた講演会の開催→学びと交流の場
H30	●こどもの読書週間関連行事(絵本の読み聞かせ・工作・しおり作り等、参加者384人)●小中読書感想文・感想画コンクールの実施。●国民文化祭「ひじアートミュージアム3244」障がい者アート・作品展、切り絵作家 中島眞一氏による切り絵の実演等。●図書館ミニコンサートの実施(緑丘高校生によるクラシック・速見雅楽会による演奏会等)●ボランティアグループ集会等の実施また研修活動場所の提供。●施設見学・職場体験等の実施(小学生の施設見学や中・高校生による職場体験を随時行っている。)●以上、実施により、「交流と学びの拠点」となる図書館運営ができました。	R1	●こどもの読書週間関連行事(絵本の読み聞かせ・ミニシアター・しおり作り等、参加者340人)●小中読書感想文・感想画コンクールの実施。●わたしの川柳コンテストの開催●図書館ミニコンサートの実施(緑丘高校生によるクラシック・速見雅楽会による演奏会・リコーダー等の演奏(リコレット)等)●ブックスタート交流会等の実施。また研修活動場所の提供。●施設見学・職場体験等の実施(小学生の施設見学や中・高校生による職場体験を随時行っている。)●3月3日からコロナウイルス感染防止の為、休館した。●以上、実施により、「交流と学びの拠点」となる図書館運営ができました。

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名（R元年度分）	関連する取組項目	事業コスト（千円）	【参考】事務事業評価（H30）	
					評価	評価内容
	1	社会教育総務費	①	67,632	なし	-
	2	地域「協育力」向上支援事業	①	329	A	事業を継続又は拡大
	3	子ども会育成会連絡協議会支援事業	②	500	なし	-
	4	ジュニア・リーダーズクラブ支援事業	②	76	なし	-
	5	中央公民館費	③	39,632	なし	-
	6	地区公民館費	③	10,051	なし	-
	7	図書館運営事業	④	110,412	なし	-
	8	読書活動推進事業	⑤	441	なし	-
	9					
	10					

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針（次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項）
		C やや遅れている
	行政評価会議	評価理由
	C 遅れている	「生涯学習の充実」では、生涯にわたって学習し、その成果を地域で生かせる環境づくりや、子どもたちを守り育てる環境づくりを推進することを主な目的としているが、設定している4つの目標指標の目標を全て達成できていないため、C評価としている。社会教育では、目標指標を自主教室の開催数や、地域活動を支える人材育成講座の参加者数を新たな目標指標に追加するなどを検討して頂きたい。図書館活動では、来館者数が年々減少しているため、様々なイベントや蔵書の充実などを図り、利用環境の向上を目指していただきたい。
	外部行政評価委員会	評価理由
	C やや遅れている	コロナ禍により、図書館及び公民館の運営は非常に難しかったと思うが、目標指標の達成率等を勘案し、C評価とする。生涯学習の充実に関しては、各委員の意見のとおり、一度目指す姿を見直ししていただきたい。現在日出町が目指している「共創のまちづくり」を目標に、生涯学習で学んだことを地域に還元したり、地域リーダーが活躍できるような取組を推進するなど、工夫を凝らしながら後期計画ではチャレンジしていただきたい。図書館は、図書館という概念にこだわらずに、コミュニティの場や子育ての場として活用し、放課後子ども教室のような子どもたちが学校の後に気軽にに行けるような場にするなど、工夫を凝らしていただきたい。

政策体系	政策名	II 未来に続く人と文化を育むまちをつくる【教育・文化】					施策名	5 芸術・文化・スポーツの振興				施策コード	II-5	総合計画	
町民意識調査結果(R1)	満足度	10	位	重要度	33	位	領域	検証領域	所管課名	文化・スポーツ振興課	作成者名	内線	72-3222	関連課名	-

I 目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2	R7	評価	
							(中間年)	(最終年)		
1	文化協会加入者数(人)	目標	1,000	1,025	1,050	1,075	1,100	1,200	✕	
		実績	967	910	843	787	786	-		-
		達成度		91.0%	82.2%	75.0%	73.1%	-		-
2	文化まつり参加者数(人)	目標	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	2,700	✕	
		実績	2,128	2,290	1,780	1,660	2,150	-		-
		達成度		109.0%	80.9%	72.2%	89.6%	-		-
3	総合型地域スポーツクラブ「ひまわりのたね」会員数(人)	目標	400	450	500	550	700	1,000	✕	
		実績	347	339	325	333	240	-		-
		達成度		84.8%	72.2%	66.6%	43.6%	-		-
4	県民体育大会総合順位	目標	10	9	9	8	8	8	✕	
		実績	10	11	10	10	11	-		-
		達成度		90.9%	90.0%	90.0%	72.7%	-		-
5										
6										
7										

II 主な取組項目	進行状況 (A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応)	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
①	自主的で創造性豊かな芸術文化の振興 ・文化協会推進補助事業 ・各種文化教室・講座の開催	C 現状維持 ひじ産業文化まつりの芸術作品展では、町文化協会団体の作品及び一般・障がい者の方にも出展いただき文化振興を図った。芸能発表会や芸術作品展、また関連イベントとしてカラオケ大会、謡曲大会、短歌大会、俳句大会、将棋大会を開催。健常者や障がい者の枠を超え、誰もが分け隔てなく文化活動に参加できる文化振興に取り組み地域活性化に繋がった。今後も町文化協会の自主的な取り組みや運営ができるよう支援体制の強化に努める。
②	芸術・文化の創造と鑑賞機会の充実 ・ひじ文化まつりの開催 ・瀧廉太郎記念音楽祭の開催	B 改善・順調 瀧廉太郎音楽祭では生の歌声を身近に感じ多くの観客を魅了した。芸術文化鑑賞イベントでは長唄や落語を鑑賞し日本の伝統芸能や話芸を堪能した。ひじ産業文化まつり及び芸術文化鑑賞イベントでは、多くの方に鑑賞いただき大盛況で幕を閉じたが、町文化協会加入団体は年々減少し、後進の育成に苦慮している。会員の高齢化により、活動が十分できていない団体もあるが、できるだけ多くの団体にイベント参加を促し、団体間の交流を促進し芸術文化の振興に努める。
③	ライブステーション(世代)に応じたスポーツの推進 ・「ひまわりのたね」支援事業 ・体育振興補助事業 ・体育施設管理事業	D 悪化 町民がスポーツに何を求めているかを的確に把握し、町民がいつでもどこでも多種のスポーツに親しむことができる環境づくりのため、総合型地域スポーツクラブの自立支援に努めてきたが、のべ会員数が333名から240名に減少した。会員数増加のための魅力ある教室の開催が課題。健康づくりを主体とした事業を開催していくことで、多くの住民に知ってもらうことが必要。
④	競技スポーツの推進 ・体育協会補助事業 ・体育振興補助事業 ・スポーツ少年団育成事業	D 悪化 体育協会加盟の競技団体並びに生涯スポーツ団体の組織強化を図るとともに、連携を密にし、競技力向上のプランや選手発掘、次世代を担う指導者育成等、競技人口の拡大と選手強化を目指してきたが、県民体育大会では16チーム中11位の成績となり、B部残留を果たすことができなかった。県民体育大会に出場できない競技団体が複数あるため、出場得点が獲得できていない。登録団体すべてが出場できるように、各団体と連携を取りながら、選手確保に努める必要がある。
⑤		
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容					
H28	文化協会、体育協会等と連携し、定例の行事やイベントを実施。	H29	単独だと来場者が少ないことなどから、単独で開催していた「ひじ文化まつり」「ひじ産業まつり」を以前のように「ひじ産業文化まつり」に統合。	H30	国民文化祭おおいた2018において、日出町は「世界のヒョウタン展」等を開催、瀧廉太郎記念音楽祭では、東京オペラシンガーズのステージを披露し、フォークダンスの愛好家による祭典を実施。多くの方が日出町を訪れ、日出町の魅力をPRすることができた。
					R1 2019ひじ産業文化まつりの芸術作品展では、日出町文化協会団体の作品及び一般・障がい者の方にも出展いただき文化振興を図った。健常者や障がい者の枠を超え、誰もが分け隔てなく文化活動に参加できる文化振興に取り組み、地域活性化に繋がった。

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名 (R元年度分)	関連する取組項目	事業コスト (千円)	【参考】事務事業評価 (H30)	
					評価	評価内容
	1	芸術文化振興事業	①	2,449	なし	-
	2	保健体育総務費	③	2,680	なし	-
	3	体育施設管理費	③	17,279	なし	-
	4	総合型地域スポーツクラブ自立支援事業	③	700	B	事業改善
	5	総合型地域スポーツクラブマネージャー設置事業	③	2,962	B	事業改善
	6	体育振興費補助金事業	③	1,405	なし	-
	7	スポーツ傷害見舞金事業	③	200	なし	-
	8	体育協会補助金事業	④	6,080	なし	-
	9					
	10					

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針 (次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項)
	C やや遅れている	文化振興においては、各種文化活動の推進を図り町民の主体的かつ創造的な活動など幅広い文化・芸術活動を支援するとともに芸術にふれる機会を提供し心の豊かさ培っています。また、文化・芸術活動に参加してもらい生きがいや健康づくりにつなげています。スポーツ振興においては、「ひまわりのたね」の会員減少や県民での成績不振等様々な課題があり、これらの課題解決に向けた取り組みが必要です。
C 遅れている	行政評価会議 評価理由 「芸術・文化・スポーツの振興」は、芸術・文化活動への参加の促進、運動能力の向上や健康維持、競技スポーツの推進を主な目的としている。4つの目標指標を設定しているが、いずれも実績が目標に達していないため、C評価としている。芸術・文化の振興については、文化協会の加入数が年々減少しており、文化まつりの参加者数も減少しているため、後期総合計画では、取組内容の工夫を図っていただきたい。スポーツの振興では、「ひまわりのたね」が2年連続で事務事業評価の対象となっており、体制の見直しを検討をお願いしていたが、状況は変わっていない。会員数も減少し続けており、目標の半分以下となっている。また、この事業は町の単独事業でもあるため、これ以上改善が見込めない場合は、今後の運営方針について再度要検討していただきたい。総合計画の見直し時に、文化振興やスポーツ振興に関わった人数として、スポーツ施設や文化施設の利用者数を新たな指標として追加を検討していただきたい。	
D 遅れている	外部行政評価委員会 評価理由 芸術・文化・スポーツの振興は、生活に直結しない施策ではあるが、この施策によって人材育成や生きがいづくり、健康づくりなどの便益を受けることができ、それが地域の自主自立に繋がりを、日出町の活性化に繋がっていくということを、町民の方にはっきり伝えられるような工夫が必要である。その点で、これまでの取組から思い切った発想の転換をするためにも、今回の評価はDとし、後期基本計画では、巻き返しを図っていただきたい。	

政策体系	政策名	VI 人のつながりを大切にすまちをつくる【人権・協働】					施策名	2 地域コミュニティの活性化				施策コード	VI-2	総合計画			
町民意識調査結果(R1)	満足度	26	位	重要度	38	位	領域	検討領域		所管課名	総務課		作成者名	内線	216	関連課名	-

I 目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
			1	自治会加入率 (%)	78.8	78.8	75.8	75.0	
		78.8	78.8	75.8	75.0	80.0	80.0	85.0	✕
			100.0%	94.8%	93.8%	93.6%	-	-	未達成
2									
3									
4									
5									
6									
7									

II 主な取組項目	進行状況 (A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応)	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 地域コミュニティ活動の推進 ・まちづくり支援補助金 ・地区支援員制度の活用 ・区への加入促進	D 悪化	支援補助金は実施数が減少している。地区支援員制度はほぼ回覧送達のみであり形骸化が進んでいる。区の加入促進は開発行為事前協議や住民課窓口での転入手続時における斡旋を行っている。
② 地域コミュニティの維持に対する支援 ・小規模集落対策事業 ・里の暮らし事業 ・区への加入促進	C 現状維持	支援補助金は実施数が減少している。地区支援員制度はほぼ回覧送達のみであり形骸化が進んでいる。区の加入促進は開発行為事前協議や住民課窓口での転入手続時における斡旋を行っている。旧まちづくり支援補助金の交付要綱を一部改正し、小規模集落のネットワーク化及び活性化を図り、持続可能なコミュニティ形成を推進する基盤を作った。
③ ふれあいセンターの充実 ・ふれあいセンターの見直し	C 現状維持	ふれあいセンターの見直し自体は完了（すべて地区公民館となった。）し、残すところ旧豊岡分館の利活用が懸案事項となっているが、防衛省と協議を行い、改修事業の補助要望までに至った。
④		
⑤		
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容	総務課
H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。</li> <li>■ふれあいセンターの見直しについては十分な議論ができなかった。</li> <li>■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。</li> <li>◆協力隊による支援→高平地区◆助成事業1件（新町）</li> </ul>
H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。</li> <li>■ふれあいセンターの見直しについては協議が整った。</li> <li>■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。</li> </ul>
H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。</li> <li>■ふれあいセンターの見直しについては完了。ただし、旧豊岡分館は改修後引き続き住民の用に供すこととなった。</li> <li>■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。</li> </ul>
R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。</li> <li>■旧豊岡分館の改修事業は防衛省補助事業に関する協議を行った結果、要望事項に上がったため未執行となった。</li> <li>■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。</li> </ul>

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名 (R元年度分)	関連する取組項目	事業コスト (千円)	【参考】事務事業評価 (H30)	
					評価	評価内容
	1	自治会・区長会支援事業	①	32,556	なし	-
	2	旧ふれあいセンター管理運営事業	③	7,945	なし	-
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					

V 評価	担当課長評価	評価理由と今後の取組方針 (次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項)	
		評価理由	今後の取組方針
C	やや遅れている	住民意識の中で地域コミュニティへの参加意欲の低下が進み、「互助」、「共助」意識の希薄化が進んでいることを憂慮している。特に小規模集落とその周辺自治区については、持続可能なコミュニティ維持のための分析・検証を行い、新たな取り組みを推進していくことが必要であると考えている。	
		行政評価会議	評価理由
D	遅れている	「地域コミュニティの活性化」では、自治会・地域住民と行政が手を取り合って住んで良かったと思えるまちづくりを主な目的としている。目標指標は、「自治会加入率」としているが、目標に達しておらず、H27年度の基準値よりも低下している状況である。また、取組項目では、地域コミュニティ活動の推進及び地域コミュニティの維持に対する支援のいずれも達成度がD評価となっているため、総合的にみてD評価としている。 施策が遅れているため、後期基本計画では、共創のまちづくりとしての強化を図っていただきたい。また、ふれあいセンターの充実」に代わる取組項目についても検討をしていただきたい。	
		外部行政評価委員会	評価理由
D	遅れている	現在の町民の関心、自治会の加入率の低下を勘案すると、施策の取組は遅れているとして、D評価とする。重要度、満足度ともに低く、検討領域に入っているが、共創のまちづくりを実践していく上では、これは検討ではなく重要な課題として認識する必要がある。日出町のアイデンティティをいかにして醸成していくかが大切であり、そのために具体的にどのような仕掛けづくりを行っていくかが非常に重要な要素となる。今後は、地域を育成していくための事業や制度の工夫を図り、共創のまちづくりを目指していただきたい。	

政策体系	政策名	VI 人のつながりを大切にするまちをつくる【人権・協働】					施策名	2 地域コミュニティの活性化			施策コード	VI-2	総合計画			
町民意識調査結果(R1)	満足度	26	位	重要度	38	位	領域	検討領域		所管課名	政策推進課	作成者名	内線	247	関連課名	-

I 目標指標	目標指標名	基準値	H28	H29	H30	R1	R2 (中間年)	R7 (最終年)	評価
			1	自治会加入率 (%)	78.8	78.8	75.8	80.0	
	目標		78.8	80.0	80.0	80.0	80.0	85.0	
	実績	78.8	78.8	75.8		-	-		
	達成度		100.0%	94.8%	0.0%	0.0%	-	-	
2									
3									
4									
5									
6									
7									

II 主な取組項目	進行状況 (A:達成・解決、B:改善・順調、C:現状維持、D:悪化、E:未着手、未対応)	
	達成度	取組項目のねらい、実際に取り組んだ内容・達成度の理由
① 地域コミュニティ活動の推進 ・まちづくり支援補助金 ・地区支援員制度の活用 ・区への加入促進	D 悪化	支援補助金は実施数が減少している。地区支援員制度はほぼ回覧送達のみであり形骸化が進んでいる。区の加入促進は開発行為事前協議や住民課窓口での転入手続時における斡旋を行っている。
② 地域コミュニティの維持に対する支援 ・小規模集落対策事業 ・里の暮らし事業 ・区への加入促進	C 現状維持	支援補助金は実施数が減少している。地区支援員制度はほぼ回覧送達のみであり形骸化が進んでいる。区の加入促進は開発行為事前協議や住民課窓口での転入手続時における斡旋を行っている。旧まちづくり支援補助金の交付要綱を一部改正し、小規模集落のネットワーク化及び活性化を図り、持続可能なコミュニティ形成を推進する基盤を作った。
③ ふれあいセンターの充実 ・ふれあいセンターの見直し	C 現状維持	ふれあいセンターの見直し自体は完了（すべて地区公民館となった。）し、残すところ旧豊岡分館の利活用が懸案事項となっているが、防衛省と協議を行い、改修事業の補助要望までに至った。
④		
⑤		
⑥		
⑦		

III 年度別取組内容	政策推進課
H28 ■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。 ■ふれあいセンターの見直しについては十分な議論ができなかった。 ■自治会、区長の連絡先について転入者に案内をしている。 ◆協力隊による支援→高平地区 ◆助成事業1件（新町）	H29 ■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。 ■ふれあいセンターの見直しについては協議が整った。 ■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。
H30 ■まちづくり支援補助金による地域活性化の支援を行った。 ■ふれあいセンターの見直し（地区公民館として運用）については完了。ただし、旧豊岡分館は改修後引き続き住民の用に供することとなった。 ■自治会、区長の連絡先について転入者に案内している。	R1 ■旧豊岡分館の改修については、十分に議論し、令和2年度改修の方針を決定した。 ■共創のまちづくり支援補助金要綱を制定し、令和2年度以降の小規模集落支援の基盤を作った。 ■自治会、区長の連絡先について転入者に案内をしている。 ◆協力隊による支援→大神地区全域

IV 施策を構成する主要事業	No.	事業名 (R元年度分)	関連する取組項目	事業コスト (千円)	【参考】事務事業評価 (H30)	
					評価	評価内容
	1	自治区・区長会支援事業	①	32,556	なし	-
	2	旧ふれあいセンター管理運営事業	③	7,945	なし	-
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					

政策推進課	
担当課長評価	評価理由と今後の取組方針 (次期総合計画の見直しに当たり考慮すべき事項)
C やや遅れている	住民意識の中で地域コミュニティへの参加意欲の低下が進み、「互助」、「共助」意識の希薄化が進んでいることを憂慮している。特に小規模集落とその周辺自治区については、持続可能なコミュニティ維持のための分析・検証を行い、新たな取り組みを推進していくことが必要であると考えている。
行政評価会議	評価理由
D 遅れている	「地域コミュニティの活性化」では、自治会・地域住民と行政が手を取り合って住んで良かったと思えるまちづくりを主な目的としている。目標指標は、「自治会加入率」としているが、目標に達しておらず、H27年度の基準値よりも低下している状況である。また、取組項目では、地域コミュニティ活動の推進及び地域コミュニティの維持に対する支援のいずれも達成度がD評価となっているため、総合的にみてD評価としている。施策が遅れているため、後期基本計画では、共創のまちづくりとしての強化を図っていただきたい。また、ふれあいセンターは廃止されたため、「ふれあいセンターの充実」に代わる取組項目についても検討をしていただきたい。
外部行政評価委員会	評価理由
D 遅れている	現在の町民の関心、自治会の加入率の低下を勘案すると、施策の取組は遅れているとして、D評価とする。重要度、満足度ともに低く、検討領域に入っているが、共創のまちづくりを実践していく上では、これは検討ではなく重要な課題として認識する必要がある。日出町のアイデンティティをいかにして醸成していくかが大切であり、そのために具体的にどのような仕掛けづくりを行っていくのが非常に重要な要素となる。今後は、地域を育成していくための事業や制度の工夫を図り、共創のまちづくりを目指していただきたい。